かぜのきざし　2016　MARCH

風の萌

特定非営利活動法人（NPO）
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第033号

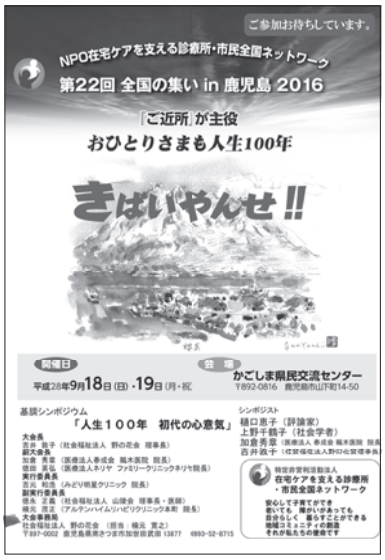
2016年3月25日

安心して子育てができ　老いても障がいがあっても　自分らしく暮らすことができる　コミュニティーの創造

第22回　全国の集いin鹿児島2016開催にあたって

大会長　吉井　敦子（社会福祉法人 野の花会　理事長）

鹿児島大会の吉井大会長から、開催に当たっての抱負を語っていただきました。大会のキャッチフレーズでもある、〝**『ご近所』が主役　おひとりさまも人生100年**〟の通り地域包括ケアに対する考えを語っていただきました。



このたび、「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク全国の集い」第22回を鹿児島で開催することになりました。

20余年前にこの会の理念と実践に共鳴して、若い先生方と共にコメディカルの一人として参加して毎回多くの賜物をいただいてきました。

全国大会を鹿児島でということになり、思いも力も足りない私を若い先生やコメディカルが支えてくださり準備が行われており、また会長の苛原先生をはじめ理事、事務局の方も会議のたびに手弁当で東京からお越し下さり、多くのご助言・ご協力をいただいております。会員の思いに沿った鹿児島らしい会になるように努力いたします。

これから地域包括ケアの時代を迎え、住み慣れたなじみの地域で、そこに住む人々が主役となり街を変えてゆかなければなりません。地域も家族も変わります。在宅支援診療所の医師・コメディカルの多職種が連携して地域の方々に**「私たちが主役」**という意識を強く持って、街づくりにご参加いただけるよう働きかけ、地域で「行動の自由が弱まっていくご自分を見つめながらもけなげに生活されている」人生100年初代の方々に手を差し伸べながら足し算の支援・引き算の支援を上手に見極め、その心意気にお応えできるような地域づくりをしていかなくてはなりません。

終末期ケアと看取りについても家での最期を望みながらも叶わなかった方が多い中でハードの上に質の高いソフト（スピリッツ）を私たちが構築していくことが迫られています。

高齢の6割の方々が、「自宅での医療・介護」を望んでいるといわれ、「在宅ひとり死」のセミナーの盛況を見ても関心の高さが伺えます。一方、高齢世帯の半分は独居世帯です。地域包括ケアの到来は**「在宅での地域ケア」「看取りも含めた在宅ケア」**といわれていますが、これがどうしたらサービスを受ける本人の思いに沿ったものになるか？

ご本人それを支える医師、多職種の人達がお互いの立場から意見を述べ、地域住民一人一人がこの制度を良く理解してサービスは本人が選ぶ、または選択できる自分自身になれるよう学びを深める大会になるように願い、**「人生100年・志と学びをもって生きよう」**と呼びかける評論家　樋口恵子さん「おひとりさま」の著作も多い上野千鶴子さんからも**「地域包括ケアは独居世帯を救えるか」**などの提言もいただきながら、本会からも地域を支え続けてきた医師も加わり、本人・地域の方々が国の目指す方向をより深く理解されるきかっけになるよう、この会の20数年前からの実践と思いを今こそ発揮して人生100年丸の船出にふさわしい鹿児島大会にしたいと思っています。

皆様宜しくお願い致します。

鹿児島大会メイン企画が決定！！

9月18日、19日　鹿児島大会のメイン会場・かごしま県民交流センターで開催される基調シンポジウムが決定しました。第1日目の開会直後のシンポジウム、及び同会場で2日目に行われる地元向けの「特別講演」に関してお知らせいたします。

1日目　10：00～　かごしま県民交流センター

基調シンポジウム

「人生100年初代の心意気」

地織包括ケアの時代を迎え、地域も家族も大きく変わります。

「人生100年･志と学びをもって生きょう」と呼びかける評論家･樋口恵子さん、「おひとりさま」の著作も多い、上野千鶴子さんからも「地域包括ケアは独居世帯を救えるか」などの提言もいただきながら、本会からも地域を支え続けてきた医師・福祉・介護に携わった人たちも加わり、本人・地域の方々が国の目指す地域包括ケアをより深く理解されるきっかけになるよう、人生百年丸の船出にふさわしい鹿児島大会にしたいと願っています。

樋口 恵子氏

上野 千鶴子氏

樋口恵子氏の主な経歴
1956年、東京大学文学部美学美術史学科卒業。在学中、同大新聞研究所で特別研究生としてジャーナリズムを研究。
時事通信社、学習研究社、キヤノン勤務ののち、1971年、フリーの評論家となり、女性問題、福祉、教育の分野で評論活動を行う。
1986年から2003年まで、東京家政大学教授を務めた。

上野 千鶴子氏の主な経歴
1972年 - 京都大学文学部哲学科社会学専攻卒業。
1995年 - 東京大学大学院人文社会系研究科教授。
2009年 - NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)を設立して、理事に就任する。
2011年 - 東京大学退職（退官記念講義は東日本大震災のため7月に延期された）。
2011年 - NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長。
2011年 - 東京大学の名誉教授となる。
2012年 - 立命館大学大学院先端総合学術研究科の特別招聘教授となる（2017年迄）。

1日目　10：00～　かごしま県民交流センター

「目標達成へのプロセス』

～医療・介護人材のマンパワーを引き出す組織づくり～

サッカー指導者 佐々木 則夫氏

佐々木則夫氏の主な経歴
帝京高校・明治大学を経てNTT関東サッカー部で選手として活躍
1990年　現役引退　NTT関東サッカー飾・大宮アルディージャでコーチ、監督を歴任
2006年　目本サッカー協会なでしこジャパン（日本女子代表）コーチ就任
2007年　目本サッカー協会なでしこジャパン（日本女子代表）監督就任
2008年　東アジア女子ザッカー選手権に優勝し日本初のタイトルをもたらす
北京オリンピックベスト4
2010年　東アジア女子サッカー遣手権で2度目の優勝
2011年　FIFA女子ワールドカップドイツ2011で臼本サッカー初の世界一へ導く
2012年　ロンドンオリンピック銀メダル獲得（旧本ザッカー史上初）
2014年　AFC女子アジアカップ健闘
2015年　FIFA女子ワールドカップカナザ2015事優勝
国民栄誉賞（図体受賞、2011）・AFC最優秀監督賞（2011）
FIFAバロンドール女子最優秀監督賞（2011年年間表彰）他受貧多数

実践交流会の案内および募集日程

実践交流会のカテゴリー及び担当させていただく座長の方々が決定いたしました。
募集要項を含めた今後の日程等についてご案内させて頂きます。

カテゴリー別一覧表	このカテゴリーにおける前年度優秀発表
実践交流会①「在宅生活の継続を支えるリハビリテーション」 座長：石田 一美（秋櫻醫院） 山崎 正博（介護老人保健施設　アメニティ国分）	森田 絵美 社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会　特別養護老人ホーム絆の広場 【重度独居者の在宅生活を支えるユニット型特養のショートステイの事例～ご本人と家族の希望の実現に向かって～】
実践交流会②「訪問サービス＆通所サービス」 座長：岡崎 和歌子（有限会社 菜の花） 新　智哉（介護老人保健施設　ラポール吉井）	寺田 美恵子 生活協同組合パルシステム東京 【市民が取り組むリスクマネージメント評価活動】
実践交流会③「看取りの実践」 座長：中嶋啓子（医療法人啓友会 なかじま診療所） 徳永正義（社会福祉法人山陵会）	太田 伸一 社会福祉法人 山陵会　特別養護老人ホーム フラワーホーム 【特養入所者の自宅での看取り】
実践交流会④「人材育成・教育：介護・看護人材の育成」 座長:長縄伸行（医療法人フェニックス　鵜沼中央クリニック） 大久保 義人（みどり明星クリニック）	中村 豪志 医療法人社団　いでした内科・神経内科クリニック 【業務改善活動の効果について】
実践交流会⑤「地域で支える認知症ケア」 座長：金田 弘子（医療法人社団もりもと　森本外科・脳神経外科医院） 常見 裕之（公益社団法人　認知症の人と家族の会　鹿児島県支部　代表）	佐藤 大輔 医療法人　社団　都会　渡辺西賀茂診療所 ショートステイにしがも【「帰りたい」という思いに向き合うこと】
実践交流会⑥「口腔ケアと栄養管理」：「最後まで口から食べることへのこだわり」 座長：大川 延也（大川歯科医院） 福原 和人（鹿児島歯科医師会）	水野 敏江 看護師　医療法人あいち診療会　あいち診療所のなみ訪問看護ステーション 【地域を支える在宅栄養管理の実践にむけて】
実践交流会⑦「これからの地域包括ケア」：ご近所が主役 座長：大澤　誠（医療法人あづま会 大井戸診療所） 黒岩 尚文（全国小規模多機能形事業者連絡会）	中堀 千賀子 医療法人あいち診療会あいち診療所野並 【地域の健康寿命を支える診療所の看護外来】
実践交流会⑧「新しい試み」 座長:福田善晴（医療法人　大和会･社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会　理事長） 松村伸一郎（社会福祉法人　恵会　特別養護老人ホーム　はっぴー園　副理事長）	齋木　実 医療法人社団　満寿会　鶴ヶ島在宅医療診療所 【「彩の国連携力育成プロジェクト」に施設側ファシリテーターとして参加して～無垢な学生のうちから同じ目線の多職種連携を～】
実践交流会⑨「薬と生活」 座長：金井 秀樹（やまと調剤薬局） 沼田 真由美（鹿児島県薬剤師会）	箱崎 麻美 友愛薬局　小金原店 【施設における下剤の使用状況と薬剤師の関わり】

演題の募集に向け、今後は各座長よりカテゴリーにおいての細目を決定させて頂き、2016 年度の募集内容として『演題募集要項』及びホームページにてご案内させて頂きますので応募の際の参考にしていただければと存じます。
締め切り後、カテゴリー毎に座長、発表者間のメーリングリストを作成いたします。
今年度より当ネットワークの理事もいずれかのカテゴリーに参加することになりました。大会当日に向けて進行、内容に関しての連絡等にご利用ください。

募集日程

演題登録本番開始予定日：　平成 28 年 5 月 10 日
演題締め切り予定期日　：　平成 28 年 6 月 30 日
登録演題採択結果・発表カテゴリー、発表形式通知
：　平成 28 年 7 月 15 日
発表原稿投稿開始　：　平成 28 年 7 月 15 日
発表原稿投稿締め切り　：　平成 28 年 8 月 22 日

プレ大会報告

鹿屋プレ大会

日時：3月15日（月）
18：00分～20：30分
会場：鹿児島県鹿屋市
リナシティ鹿屋

3月15日に、医療・介護職約130名の方々が参加し開催されました。

今回のプレ大会は、「潜在能力を引き出す介助」として（株）大起エンゼルヘルプ事業部長補佐で理学療法士の田中義行先生の講演でした。

冒頭で吉井大会長が9月18・19日に開催される全国の集いin鹿児島の告知として、在宅医療の大会ですが、鹿児島大会はコメディカルが大会長です。これからの地域包括ケアは医療だけではなく、コメディカルとの連携が非常に重要です。そのような連携について学べる大会ですので、ぜひ多くの参加をお待ちしておりますと挨拶致しました。次いで、名古屋から遠路お越し頂いた藤村副会長からもご挨拶頂き、潜在能力を引き出す介助質を実践するためには高い質の介護が非常に重要で、その為に健康を維持できるよう気付きの目を持ち、看護を使いこなせる介護職になって欲しいと述べられました。藤村副会長には、鹿児島準備委員会にも毎回ご出席頂いております。

講演は潜在能力を引き出す介助として、4年間口を閉じていない患者の紹介があり、全身の緊張をとることは遅れていると話され、姿勢作りが大事だが、勘違いしないで欲しいのが根本は、寝たきり状態でこのような状態になる。つまりは、寝たきり状態にしないで欲しいと述べられた。その技術として、まず認知症については、認知症は現在混沌としており、いいとこ取りは無理でいいとこ取りは、そのひとのセンスで成り立っている。ひとつこれだれは認めざるを得ないことは「快・不快」の考え方が大切で、その人にとって何が不快か？を考えることである。そして、ADLや動作についても参加者全員で実技を交えながら説明があり、健常者の立ち上がりの動作を実際に実演し、高齢者の身体特性を把握してケアをすべきである。人の自然な動きは個々人違うので、これが基準だと考えてはいけない。ひとつ考えて欲しいのが、健常者の動きではなく、本来障がい者の動きを考えないといけない。でばければ、誤用・過用を引き起こしてしまい、きちんとしたケアを実施しないと、人の自然な動きを引き出せないと強調された。事例を通して、立位保持のみでも十分に能力を引き出すことがあるので、きちんとした能力の評価をしないと、残存能力を逆に奪い、人手も足りなくなってしまう。更に、優しくふれても触れる場所も重要であると述べられた。

最後に、枕の正しい当て方に触れ、首の緊張を取るように、当てることが大事であり、このことを無意識の意識化である。つまりは、当たり前のことをきちんとしている施設はケアの質が高く、全介助でも能力をきちんと引き出せば介助量が少なくなり、介護負担が減るようにリハビリを実施することが重要であると話された。

全体を通じて、潜在能力をする為に、このように介助すべき!! ではなく、思い込みにとらわれず身体のメカニズムを理解することは重要だが、まずは「快・不快」の影響が非常に大事であると学びました。そのうえで、その方の身体状況を把握し介助を実施することで潜在能力も引き出せ、かつ介助量が軽減すれば少ない人材でも対応できると再認識したとても有意義なプレ大会でした。

（野の花会の楠元寛之様より原稿をいただきましたので掲載いたしました。）

鹿児島大会、着々と準備進行中

―第３回実行委員会より―

去る１月23日、鹿児島大会の第３回実行委員会が吉井大会長の施設である『アルテンハイム鹿児島』にて開催されました。１日目のメインシンポジウム、２日目の講演会をはじめ様々な企画が出始め、その検討が本格化してきました。
主要な企画の詳細については次ページに紹介させて頂きます。

全国の集いin鹿児島準備会　報告

鹿児島大会は

『ご近所』が主役
おひとりさまも
人生１００年
きばいやんせ!!

のタイトルにもあるように、おひとりさま（独居生活）が増えてくることは予測されています。その中で鹿児島県は離島も多く独居高齢者の世帯数が多い県です。まずは、本人がどのようような心意気で生活していくのか？つぎに、本人の自助のみならず家族の協力、ご近所（地域住民）の協力が必要です。その為には、在宅医療についての知識はもちろん、自立支援に繋がる介護の知識や介護の為の離職防止等、住民が意識を変え本人の為の介護保険となるにはどうのようにすればよいのかを議論していきたい。これからの地域包括ケアは医療・介護の連携とご近所（地域住民）も参加してのネットワーク作りが不可欠です。大会を通じてそれらのことを学べる大会にしたいです。

1　基調講演「人生１００年初代の心意気」として
上野千鶴子氏、樋口恵子氏、黒岩理事、吉井大会長、加倉副大会長の５名でのシンポジウム形式となります。
日時・９月18日（日）
10：00～12：00
場所・県民ホール
（約６００名）

2　特別講演「目標達成へのプロセス」～医療・介護人材のマンパワーを引き出す組織作り～として、なでしこＪＡＰＡＮの佐々木則夫監督をお呼びします。
＊市民は１０００円の予定です。

3　実践交流会の内容について
↓様々な内容の検討を行いました。詳細については理事会及び理事会で決定された実践交流会座長と共に進めていきたいと考えております。

その他、鹿児島らしい企画などを考えております。

また、今後のプレ大会については以下のような予定が現時点で企画されております。
詳細についてもこの号で紹介させていただきました。（○ページをご覧ください）
５月29日（日）10：30～
霧島市（加倉副大会長）
６月19日（日）13：30～
鹿児島市（吉井大会長）

新委員のご紹介
①沼田 真由美　様
職責：鹿児島県薬剤師会
常務理事
勤務先：有限会社　福元薬局　代表取締役
②黒岩 尚文　様
職責：全国小規模多機能型事業者連絡会 副理事長
勤務先：株式会社浪漫
代表取締役

リレー寄稿

介護事業におけるマネジメントの推進を

『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか』（ゴーギャン）

NPO在宅ケアを支える診療所・全国ネットワーク事務局次長　桑原由次

リレー寄稿の六回目です。今回は、桑原 由次事務局次長よりいただきました。この企画は特にテーマ等は設けずに、『自由』にお考えを述べていただいております。そこから何か新しい何かがあればと考え、この企画を続けていきたいと思います。

私は、２０１５年に2回目の退職を迎え今や自由？の身となりました。ネットワークには市民として関わらせていただいています。最後の職種は、ＮＰＯを支援する中間支援ＮＰＯでした。ＮＰＯにおいて奮闘している皆さんは、自らがもとめていること、社会から求められていることを真摯に考えている方が多くいます。「どのような組織であれば、どのような運営であれば答えていけるのか・・・」といったマネジメントに関する対応が、一番のリクエストでした。

私は、介護事業におけるマネジメントに対しても、いまだに注視をしています。２０１５年4月からの介護報酬2・27％引き下げ改定により、介護事業所の経営の苦しさを訴える報道が相次いでいます。介護保険開始から15年を経て、介護サービスの利用者は開始時の3倍強になったものの、業績不振、慢性的な人出不足、他産業からの新規参入による競争激化が拍車をかけているとのことです。これからの高齢社会を支える重要なファクターである介護事業に展望が見えないことに、歯がゆさという立ちを禁じえません。

今、『もし高校野球の女子マネジャーがドラッカーの「イノベーションと企業家精神」を読んだら』というユニークな本が書店の店頭を飾っています。この本は、２８０万部のベストセラー『もし高校野球の女子マネジャーがドラッカーの「マネジメントメント」を読んだら』（通称「もしドラ」）の第2弾です。キャッチコピーは「競争社会で生き抜くためにすべての組織で役に立つ本」で、アニメタッチの女子高校生が描かれた表紙は、おじさんが手に取るには気が引ける代物です。

内容は、高校野球の女子マネジャーの活動を通じて、マネジメント、マーケティング、イノベーション、ニーズ、ベンチャー等が、物語の進行とともに分かり易く説かれています。

私の心に残る言葉は、ドラッカーの

『特別なことは何もない。「イノベーションに成功するものは小さく、しかもシンプルにスタートする」この業界で、そして私たちの周りで「当たり前になっていること」を変える。そして、一番になろう。』

「もしドラ」を読んだ方には最初のインパクトはないかもしれませんが、ぜひ一読をお勧めします。

ドラッカーのマネジメントの基本キーワードは

・われわれの使命は何か
・われわれの顧客は誰か
・顧客にとっての価値は何か
・われわれにとっての成果は何か
←そのために
・何を廃棄すべきか
・組織体制はどうあるべきか
・リーダーシップとチームワークを追求する。

生き残って使命を果たすためには、経営者の皆さんのバランスの取れたマネジメント能力がとても重要です。

介護保険のサービス事業は、競争原理的な考えはあっても、価格競争のない疑似市場であり、

競争するだけの価格やサービス内容を決定することはありません。

そのような市場では、競合を気にすることより環境の変化に対する順応性を磨くことと、自らの組織をきちんと創ることが肝要です。

特別なことではなく「普通」を「普通」にすることです。案外この業界ではこれがイノベーションに当たるのかもしれません。

次回は、石田一美事務局次長にお願いしております。

理事会報告

2015年度　第2回

開催日時：2016年2月21日　午前9時～12時30分

開催場所：貸会議室プラザ　東京駅八重洲口

出席理事：（敬称略）長縄　伸幸、大澤　　誠、藤村　淳子、畑　　恒土、石田　一美、井村　　隆、大石　佳能子、金井　秀樹、金田　弘子、桑原　由次、小倉　和也、多湖　光宗、長　　純一、西嶋　公子、福田　善晴、森本　益雄、吉井　敦子、吉永　隆行
オブザーバー：楠元　寛之（鹿児島大会事務局）、荒木大輔（名古屋事務局担当）

欠席理事：（敬称略）苛原　実、青木　佳之、大川　延也、太田　秀樹、岡崎　和佳子、沖倉　紅児、草場　鉄周、小林　るつ子、小山　亨、中嶋　啓子、永井　康徳、新田　國夫、萩田　均司、宮坂　圭一、村山　善紀

鹿児島大会についての報告が吉井大会長より行われ、メインシンポジウムなど中心となる企画の内容にが明らかにされた。
（これらの詳細はP○○に掲載しております）

また、実践交流会についても継承されている8カテゴリーに加え、鹿児島から1カテゴリーが追加され計9カテゴリーでの実践事例の募集を行う事に決定した。

今後は理事座長と鹿児島からの座長間でカテゴリー別にメーリングリストを設定し、演題募集に向けた動きを本格化していくことになります。また、今後はカテゴリー毎の座長については次回以降への継続性も考え封数の理事も加えて行く事も理事会で決定された。その選定につい、は今後は各座長と実践交流会担当理事間などで行うこととなった。

今回の理事会は通常の審議の他に

『今後の（我々の）ネットワークのありかた』

についての議論を行った、これは通常の理事会の進行とは異なり、グループに分けて議論を行い、その結果を発表するという形で行った。これは参加理事の発言の機会を多くしようという事も目的としており、会の根源的な課題の議論をこのような形で行なった事は、その結果も含め今後の理事会の運営に向け大いに参考となった。

上記以外の理事会での検討結果について、今後はホームページを通じて全会員に配信することが決定されましたので、詳細はホームページをご覧ください。

次回の理事会　2015年度　第1回　2015年10月12日（日･祝）：札幌市

コウノメソッド実践医による認知症についての講演開催決定

平成28年　いきいきライフセミナー

コウノメソッドとは、認知症を治療する対症療法のことであり、「徘徊」「怒り」「暴力」「歩行障害」などの困った症状が劇的によくなります。治療の基本は認知症の種類を判断し、さらに周辺症状の性質を見分けてその改善に合った投薬をします。

日　程	平成28年5月29日（日）
場　所	国分シビックセンター多目的ホール
参加費	500円（参加定員100名）
講　師	平山貴久氏 厚地脳神経外科病院 脳神経外科専門員認知症サポート医 ※平成28年4月より鹿児島市で『ひらやま脳神経外科』開院予定
演　題	「認知症に対する治療の工夫と、認知症を予防する工夫」
プログラム	10:00 ～ 受付開始 10:30 ～ 12:30 講演

コウノメソッド実践医による認知症についての講演開催決定
平成28年
いきいきライフセミナー
～コウノメソッド実践医による認知症の講演会～
コウノメソッドとは、認知症を治療する対症療法のことであり、「徘徊」「怒り」「暴力」「歩行障害」などの困った症状が劇的によくなります。
治療の基本は認知症の種類を判断し、さらに周辺症状の性質を見分けてその改善に合った投薬をします。
日　程　平成28年5月29日（日）
場　所　国分シビックセンター　多目的ホール
参加費　500円（参加定員100名）
講　師　平山　貴久 氏
厚地脳神経外科病院
脳神経外科専門員　認知症サポート医
※平成28年4月より鹿児島市で『ひらやま脳神経外科』開院予定
演　題　「認知症に対する治療の工夫と、認知症を予防する工夫」
プログラム　10:00～　受付開始
10:30～12:30 講演
【講師プロフィール】
鹿児島大学医学部卒業
鹿児島大学病院
熊本済生会病院
臼上病院（種子島）
川内市医師会立市民病院
県立大島病院（奄美大島）
…などを歴任
現在
厚地脳神経外科病院勤務
平山 貴久
脳神経外科専門医
認知症サポート医
【主催　医療法人春成会】
お問合わせ
尾脇（鶴水医院）
中山（介護老人保健施設アメニティ国分）
〒899-4301
鹿児島県霧島市国分重久361-1
電話　0995-64-0666
【申込書】　事業所名
氏名　住所　電話番号
氏名　住所　電話番号
氏名　住所　電話番号
氏名　住所　電話番号
参加費500円は当日受付でお支払いをお願いします。5月7日（土）までにFAXでお申込みください。
用紙が足りない場合はコピーしてお使いください。（担当 中山）FAX 0995-45-4515

活動予定

- **第二回理事会**　平成28年5月22日　場所：東京
- **霧島市プレ大会**　平成28年5月29日
- **鹿児島市プレ大会**　平成28年6月19日
- **第三回理事会**　平成28年8月28日　場所：東京
- **全国の集いin鹿児島**　平成28年9月18日・19日　場所：鹿児島

東京事務局からのお願い

東京事務局では情報収集・発信事業の一環として介護等に関わる各種情報の分類・整理・発信を計画しております。

理事会において、出席された各理事に対し、各々の診療所・施設で発行している会報・情報誌・広報誌等を可能であれば東京事務局へ送付して頂きたくお願いいたしました。その件に関し、改めてこの紙面でお願い申し上げます。その内容の取り扱いに関し、個人情報等には十分な配慮をさせて頂きます。

お送りいただく場合、印刷物、電子的データいずれでも構いません、下記住所及びメールアドレスにお願いいたします。購読料等の必要がある場合は事前にお知らせください。

ご質問等ありましたら、電話、FAX又はメールいずれでも結構です。

〒112-0014
東京都文京区関口1-19-2　第2弥助ビル5F
株式会社キャナル・コンピューター・プリント内
NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク　東京事務局
TEL：03-3235-7906（平日10：00～16：00）
FAX：03-3235-4880
e-mail:tokyo-jimukyoku@home-care.ne.jp

風の萌
2016年3月25日発行（第033号）
頒　価：1部50円　会員は無料
◆ 発行　特定非営利活動法人（ＮＰＯ）
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
TEL：052-848-8800　FAX：052-848-8801
http://www.home-care.ne.jp/net/　E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp
〒458-0007　愛知県名古屋市緑区篭山3-119　カーサフクシマC-32号
◆ 編集「風の萌」編集委員

∞∞∞編集後記∞∞∞

平成28年が始まって三ヶ月が経ちました。毎年、この時期になると「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」という言葉を実感します。一月から三月までは、あっという間に過ぎ去ると言う意味ですが正にその通りです。皆様は如何でしょうか。

（東京事務局／犬童）